

第13回 定例評議員会議事録

財団法人 神奈川県スキー連盟

1. 日 時： 平成17年7月30日(土) 14:00～15:40
2. 場 所： 神奈川県社会福祉会館 4階第1、2研修室 (横浜市神奈川区沢渡4-2)
3. 評議員出席状況： 評議員現在数： 50名
出席評議員数： 28名
委任評議員数： 11名
欠席評議員数： 11名 (出欠表添付)
4. 出席理事： (副会長) 古郡 敬一、野地 澄雄、山田 隆
(専務理事) 片 忠夫
(常務理事) 三塚 康雄、上田 英之、渡辺 三郎、菊地 富士夫、越前谷 芳隆
(理事) 柴田 秀一、本田 衛義、徳本 進、岡本 洋一、佐々木 生道、
川田 光代、清水 忠、木村 徳善、菊池 勇二、百海 廷、
栗田 謙悟、平沢 幸一、斎藤 幸雄、吉岡 去私
欠席理事： (会長) 河野 洋平
(理事) 長久保 巖
5. 出席監事 井駒 利一、木村 信吉
6. 出席顧問・参与 (顧問) 本田 安男、片岡 春夫(顧問弁護士) 柳沢 尚武
7. 議長選出 藤田 まゆみ評議員(川崎スキー協会)を指名
8. 議事録署名人選出 吉岡 健評議員(横浜スキー協会)、佐藤 茂之評議員(横浜スキー協会)を選出
9. 書記 徳本 進理事、川井 紀明広報委員を指名
10. 配布資料
第13回評議員会資料(事前配布)
第13回定例評議員会資料正誤表
平成17年度 SAK級別テスト申請許可状況表
11. 議 事

1) 報告事項

(1) 一般報告

片 忠夫専務理事から「県連に関しては、春の定例評議員会以降、特段の報告はありません。全日本スキー連盟は6月末に80周年を迎えて表彰がありました。当県連の関係では河野洋平氏・山田隆氏及び柴田伸彦氏の3名が永年に亘り功労があったことで表彰されました。その他、県体協関係については、特段の報告はありません。」との報告がなされた。

(2) 協賛会員規程及び個人情報保護規程の制定

上田 英之総務本部長から「協賛会員規程を制定しました。大きなところでは、契約を取交わしていくということです。また、契約の期間・協賛会員の義務と権利等も定めております。次に、個人情報保護法がすでに施行されていますが、それに準じて個人情報保護規程を制定しました。さらに、運用を定めたガイドラインを作成し、既にホームページにも公開しているプライバシーポリシーを宣言して、皆さまの情報を、厳正かつ厳重に取り扱っていきます。」との報告がなされた。

2) 審議事項

(1) 第1号議案 平成17年度事業報告及び決算報告、監査報告について

片 忠夫専務理事より、「平成17年度事業報告ですが、資料の7ページに全体の報告を載せました。その中で、登録会員は6400名弱と昨年より132名も減少しました。また、準指導員検定では、以前は240名程いた受験者が、ここ3年位で156名まで落ち込みました。このことが財政を非常に圧迫しております。さらなる事業の合理化、また新たな財源確保が必要であると考えております。」との報告がなされた。

続いて、上田 英之総務本部長から、総務本部報告(資料35ページから49ページ)、渡辺 三

郎教育本部長より教育本部報告（資料51ページから77ページ）、菊地 富士夫競技本部長から競技本部報告（資料79ページから96ページ）の提案がなされた。

平成17年度決算報告については、岡本洋一総務本部理事から、資料に基き報告（99ページから111ページ）がなされ、決算概況として、単年度収支は予算に対し約80万円のマイナスとなった。

-1 一般会計は、事業費で参加者の少ない行事の中止により支出を抑えることが出来ました。

広告料(協賛金)では約70万円のマイナスとなりました。

寄付金では、約60万円のプラスになりました。

-2 特別会計は、競技力向上対策事業の予算に対し、約30万円のプラスとなりました。続いて収支決算書（総括表、資料100ページ）、特別会計決算書（資料104ページ）正味財産増減計算書（資料105ページ）、貸借対照表（資料106ページ）、計算書類に対する注記（資料107ページ）、財産目録（資料108ページ）、固定財産現物確認表（資料109ページ）、物品期末残棚卸表（資料110ページ）について報告提案がなされた。

尚、100ページの1 基本財産運用の増減の-4,381円はプラスの誤り、2 加盟団体会費 1) 新規加盟の増減の-10,000円はプラスの誤り、2)加盟団体会費の増減の+20,000円はマイナスの誤りであり、合計は変わらないとの訂正があった。

木村 信吉監事からは、平成17年度の会計処理及び事業執行についての監査結果（資料の112ページ、4点の監査所見）について報告がなされた。

（2）質疑応答

八尾 勉評議員（川崎）から、100ページ収支決算書 3.4モーグルキャンプで、開催取り止めと実績費の関係 104ページ 4 特定預金、表中の予算は実績ではないかとの質問があり、栗田理事より、モーグル記録会は中止したが、モーグルキャンプは実施しているので、その実績であるとの答弁がなされ、岡本 洋一理事より、予算ではなく実績の誤りであるとの答弁がされた。

松浦 哲也評議員（小田原）から、スノーボードの赤字行事について、有資格者の登録者数減少について、年2回の評議員会を年1回にできないかとの質問があり、菊地 富士夫競技本部長から、専門委員が熱心に取り組んでいる行事であり、また、スノーボード競技を消滅させないためにも、もう少し時間をいただきたい。今期は、スポンサー集めなど財源確保に努め、少しでも赤字を減らす努力をするとの答弁がなされ、片 忠夫専務理事から、資格を返上する人がいることは認識しているが、数は把握していない。また、対応策として海外勤務、産休などで資格を休止する措置を始めているとの答弁がされた。さらに 財団法人では、文部省と県教育庁から、予算審議と決算審議を分けて実施するよう指導されているので、一度に開催することは非常に困難であるとの答弁がされた。

八尾 勉評議員（川崎）から、予算審議の前に事業報告と決算審議が行なわれるべきではないかとの質問があり、

片 忠夫専務理事から、財団法人では、5月末に決算を締めるが、それ以前に次年度の予算を建てなければならないので、そうせざるを得ない。しかし、予算審議の際に前年度の決算が分からなければ判断しようがないと思うので、これについては今後研究させていただきたいとの答弁がなされた。

水島 三千夫評議員（鎌倉）から、6月から新年度に入るので、予算を前倒しして決定しなければならないのであるが、6・7月分は仮予算にし、その後確定する方法もあるとの参考意見あり。

鳥羽 洋一郎評議員（横浜）から、協会が主催する準指導員養成講習会を、ぜひ受験者の実績として認めていただきたい。会員減少または高齢化は、各協会、各クラブの非常に大きな問題である。何か良い知恵があれば教示いただきたいとの要望があり、

片 忠夫専務理事から、準指導員養成講習会も含めて、準指導員検定会はS A Kが主催県連になるわけで、ルール上の問題を確認しながら継続検討としていきたいとの答弁がなされた。

宮園 節評議員（秦野）から、教育本部の行事で前回の評議員会から変わっている箇所があるとのことだが、具体的に示して欲しいとの質問があり、

渡辺 三郎教育本部長および片 忠夫専務理事から、日程の変更ではなく、未定となっていた箇所が決定したということであるとの答弁がなされた。

佐伯 英雄評議員（横浜）から、春の評議員会で来期の事業計画が決められていては、監査報告

での意見が反映されないのではないかとこの質問があり、
片 忠夫専務理事から、ご指摘のように監査報告の意見の反映は、次のシーズンに間に合わないがその次のシーズンに生かしていくように努力する。但し、可能なことは、今シーズンに出来るだけ網羅していくようにするとの答弁がなされた。

草薙 純也評議員（横須賀）から、協会長会議の開催連絡が遅いので、時期だけでも先に連絡いただきたいとの要望があり、

片 忠夫専務理事及び上田 英之総務本部長から、顧問参与会議と同時開催することで、日程調整のため連絡が遅くなり、申し訳ありません。今後は早めの案内をさせていただきますとの答弁がなされた。

水島 三千夫（鎌倉）から、春季評議員会資料の行事から強化行事 が削除されていることについて質問があり、

渡辺 三郎教育本部長から、強化行事は日程未定となっていたが、北海道行事に繰り入れることになったとの答弁がされた。

八尾 勉評議員（川崎）から、春季評議員会資料には行事としてあったが、スノーボード正指導員養成講習会が今回の行事から省かれていることの質問があり、

渡辺 三郎教育本部長から、その後決定した全日本の行事と重複する行事であるので車山行事から省いたとの答弁がされた。

藤田 まゆみ議長から、行事の変更等は予め把握し、席上で報告するように要請あり。

以上の提案について、議長より第1号議案について、承認を得たい旨諮ったところ満場一致で承認された。

3) その他

片 忠夫専務理事から、市町村合併が、とくに県央地区で計画されているが、県連としては基本的には行政区分に従う考えである。従って市町村合併が終了した段階で、各団体がどうあるべきかを議論し、評議員会等でお諮りいただくことになるとの説明がされた。

以上を以って、本日の議事を終了し、議長解任後、副会長より閉会を宣した。

この議事録が正確であることを証明するため、議事録署名人、下記に署名する。

平成17年8月5日

議 長

印

議事録署名人

印

議事録署名人

印